

## 海域における断層情報総合評価プロジェクトの中間評価について

平成 28 年 12 月  
文 部 科 学 省  
研 究 開 発 局  
地 震 ・ 防 災 研 究 課

### I. はじめに

海域における断層情報総合評価プロジェクト（以下「本プロジェクト」という。）は、平成 25 年度からの 7 ヶ年計画（本プロジェクト開始からの 4 年間で前期、その後の 3 年間で後期とする）で実施されており、複数の機関で取得されている海底下構造のデータを再解析し、日本周辺海域の断層情報を統一的な基準で整備し、津波ハザード評価のための基礎資料を提供することを目的としている。

本プロジェクトは、事業開始後 4 年目に前期事業についての中間評価を行い、中間評価の結果に応じて、計画の変更等の見直しを行うこととされている。また、中間評価において継続して後期事業を実施する機関として不適当と評価された場合には、後期事業について再度公募を行うこととされている。

本年度は、本プロジェクト開始 4 年目にあたるため、前期の進捗状況及び成果について評価を行うことを目的として「海域における断層情報総合評価プロジェクト中間評価委員会」（以下「評価委員会」という。）を設置した。評価委員会において、平成 28 年 12 月に書面及びヒアリング結果に基づき、中間評価をとりまとめる。

**本プロジェクトの公募要領において、取り組むこととされている内容は以下のとおり。**

#### ○海域断層に関する既往調査結果の収集及び海域断層データベースの構築

既往の物理探査や海底地形調査のデータ等を収集・整理し、随時サブテーマ（2）、（3）で実施する解析等に活用する。収集した探査データ等とともに各サブテーマの成果を津波ハザード評価に資する基礎資料として提供するための海域断層データベースを設計・構築し、産学官民すべてが有効に活用できるよう運用する。

#### ○海域における既往探査データ等の解析及び統一的断層解釈

サブテーマ（1）で収集・整理した既往調査のデータを利用して最新の技術で統一的に解析を実施し、その解析結果を基に有識者により統一的な基準で解釈を行い、断層を抽出する。得られた結果は、断層モデル構築のため逐次サブテーマ（3）に提供するとともに、サブテーマ（1）で構築する海域断層データベースに提供することとする。

#### ○海域における断層モデルの構築

サブテーマ（2）で抽出された断層を基に断層モデルを構築し、サブテーマ（1）で構築するデータベースに提供する。構築したモデルについては可能な限り検証を行い、モデルの内包する不確かさについてもデータベースに反映することとする。

#### ○前期事業

海底断層が主たる津波の波源と考えられるものの津波評価を行うにはその知見が不足している日本海を皮切りに、早急に防災対策を進める必要のある南海トラフ周辺、それらに隣接する沖縄周辺の海域について事業を実施する。

## ○後期事業

伊豆・小笠原海溝周辺海域、日本海溝・千島海溝周辺海域、オホーツク海について実施することとする。

なお、評価委員会における評価は、以下のような観点から実施する。

### ①事業の運営体制（事業マネジメントの妥当性）

- ・各分担機関で適宜連携をとりながら、業務計画に則って適切にかつ効率的に実施項目が進捗し、活動や成果が適時に公開されたか。

### ②進捗・達成度（事業計画と成果の妥当性）

- ・目標達成のために必要かつ十分な施策展開が図られ、適切な計画が立案され、実行され、所期の成果が得られたか。

#### ②-1-1. サブテーマ（1）の進捗・達成状況について

- イ) 海域断層に関する既往調査結果収集の進捗・達成状況
- ロ) 海域断層データベース構築の進捗・達成状況
- ハ) 運営委員会によるプロジェクト全体の運営は適切か（事業マネジメントの妥当性）
- ニ) 所期の目標の達成状況、公募審査会での指摘事項への対応 等
- ホ) 論文発表、外部への事業成果の発信 等

#### ②-1-2. サブテーマ（1）の今後の見通し、計画、展望について

#### ②-2-1. サブテーマ（2）の進捗・達成状況について

- イ) 海域における既往探査データ等の解析の進捗・達成状況
- ロ) 海域断層の統一的解釈による断層抽出の進捗・達成状況
- ハ) 所期の目標の達成状況、公募審査会での指摘事項への対応 等
- ニ) 論文発表、外部への事業成果の提供 等

#### ②-2-2. サブテーマ（2）の今後の見通し、計画、展望について

#### ②-3-1. サブテーマ（3）の進捗・達成状況について

- イ) 海域における断層モデル構築の進捗・達成状況
- ロ) 津波・地震動のシミュレーションによるモデルの検証の進捗状況
- ハ) 所期の目標の達成状況、公募審査会での指摘事項への対応 等
- ニ) 論文発表、外部への事業成果の提供 等

#### ②-3-2. サブテーマ（3）の今後の見通し、計画、展望について

### ③今後の見通し、計画、展望

- ・進捗状況、前期事業で得られた成果及び後期事業の計画から判断して、今後優れた成果の創出や社会への成果の還元が見込まれるか。

### ④全体総括（事業の意義、波及効果）

## II. 評価の方法

### (1) 各委員による評価

研究代表者等による発表・質疑応答を実施し、各委員は中間評価シートを作成する。プロジェクト全体及び各サブテーマの総合評価については、以下の評価基準に基づき評価する。

#### プロジェクト全体の評価基準

プロジェクト全体の評価の視点を総合的に勘案し、A～Eの5段階で評価する。

基準	記載内容
A	プロジェクト全体の取組は大変優れている
B	プロジェクト全体の取組は優れている
C	プロジェクト全体の取組は特段優れていることはない。今後の目標及び計画の見直しが必要である。
D	プロジェクト全体の取組は十分とは言い難いが、事業を実施する機関として最低限の役割を果たしている。今後の目標及び計画の見直しが必要である。
E	プロジェクト全体の取組は十分とは言い難く、後期事業を実施する機関として不適當である。

#### 各サブテーマの評価基準

各サブテーマの評価の視点を総合的に勘案し、A～Eの5段階で評価する。

基準	記載内容
A	本サブテーマの進捗状況及び得られた成果は大変優れている
B	本サブテーマの進捗状況及び得られた成果は優れている
C	本サブテーマの進捗状況及び得られた成果は特段優れていることはないが、所期の目標及び指摘事項への対応は達成されている。
D	本サブテーマの進捗状況及び得られた成果は十分とは言い難いが、所期の目標及び指摘事項への対応は達成されている。
E	本サブテーマの進捗状況及び得られた成果は十分とは言い難い。

なお、研究代表者等から評価委員会への事前提出資料は以下とする。

- ① 研究概要説明資料
- ② 上記資料に沿った説明資料（パワーポイント等）

### (2) 評価委員会としての評価

事務局は、各委員が作成した中間評価シートを踏まえて中間評価票（素案）を作成し、主査及び各委員に照会のうえ、中間評価票（案）を作成する。第2回評価委員会において、中間評価票（案）について審議し、決定する。

### Ⅲ. 時間配分

研究代表者等による発表時間は 60 分、質疑時間は 30 分とする。

### Ⅳ. スケジュール（予定）

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 平成 28 年 12 月 2 日頃   | メールにて中間評価方針及び研究代表者から提出された研究概要説明資料を送付する。  |
| 平成 28 年 12 月 5 日の週  | 第 1 回中間評価委員会にて研究代表者等によるプレゼンテーション及び質疑応答を実施し、進捗状況、成果等について審議する。各委員は書面及びヒアリングの結果に基づき、中間評価シートを作成する。 |
| 平成 28 年 12 月 12 日の週 | 中間評価票（素案）をメールにて各委員に照会する。   |
| 平成 28 年 12 月 19 日の週 | 各委員の意見を踏まえた中間評価票（案）を各委員にメールにて送付する。   |
| 平成 28 年 12 月 26 日の週 | 第 2 回中間評価委員会にて中間評価票（案）を審議し、決定する。   |